

製品名: AMY-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06862**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	MYCBP
別名	MYCBP; AMY1; C-Myc-binding protein; Associate of Myc 1; AMY-1
遺伝子 ID	26292.0
SwissProt ID	Q99417
免疫原	AMY-1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 30-110

背景

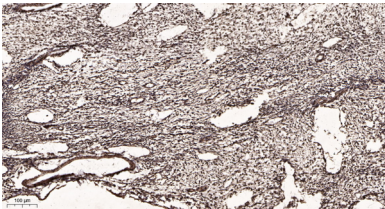
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、発癌性タンパク質 C-MYC の N 末端に結合し、C-MYC の E ボックス依存性転写活性化能を高めます。コードされるタンパク質は通常は細胞質に存在しますが、細胞周期の S 期に核に移行し、C-MYC と会合します。こ

のタンパク質は精子形成に関与している可能性があります。この遺伝子は、microRNA-22によってサイレンシングされる可能性があります。この遺伝子には、タンパク質をコードするものと、おそらくタンパク質をコードしていないものの2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011年11月]機能: MYCの転写活性を制御する可能性があります。MYCによるEボックス依存性転写の活性化を刺激します。類似性: AMY1ファミリーに属します。細胞内局在: c-Myc発現の増加により、細胞周期のS期に核に移行します。AKAP1と共存するミトコンドリア中に存在します。サブユニット: C末端領域を介してMYCのN末端領域に結合します。AKAP1/S-AKAP84と共存します。MYCBPAPと相互作用します。組織特異性: 心臓、胎盤、脾臓、骨格筋、腎臓で高発現しています。肺にも低レベルで存在します。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト卵巣腫の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈（4°Cで一晩）。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用。3、二次抗体を1:200に希釈（室温、45分）。